令和２年度 学校経営計画に対する最終報告書

石川県立羽咋工業高等学校

重点目標	具体的取組	達成度判断基準	集計結果	分析(成果と課題)及び次年度の扱い(改善策等)
1 生徒全員の進路実現のため、全教職員が、ＩＣＴ活用や主体的・対話的で深い学びの推進等を掲げた本校の学習指導方針(スクールポリシー)のもと、学力スタンダード等を活用して、個人として教科としての授業改善を実践するとともに、資格取得を奨励し、生徒の学力向上に努める。	① 思考力・表現力・コミュニケーション力の向上のため、ＩＣＴ機器を効果的に活用し、「主体的・対話的で深い学び」を主とした互観授業や公開授業・研究授業に取り組む。	授業改善に向けた互観授業や公開授業、研究授業等を年間３回以上取り組んだ教員の割合が Ａ　８０％以上 Ｂ　６５％以上 Ｃ　５０％以上 Ｄ　５０％未満	１月末までに実施した人数 (教諭・講師３０名) ３回以上　２３人（７７％） ２回　　４人（１３％） １回　　１人（　３％） 評価：Ｂ	教諭・講師３０名のうち１月末までに互観授業や公開授業、研究授業等を３回以上実施した人数は２３人で７７％となった。２月以降に実施予定の授業もある。ＰＣ・タブレット端末等のＩＣＴ機器を使用する授業や対話・発表を取り入れる授業は年々増加している。 次年度以降は出来るだけ早い時期での実施、密を避けるグループ活動の工夫、生徒の思考力・表現力・コミュニケーション力の育成と学力向上につながる授業改善を進めていきたい。
	② 学力向上を図るために、教科の宿題やレポートの出題方法と回数を工夫するとともに、授業と資格取得の補習指導を通して、家庭等での自学自習する習慣を身に付けさせる。	宿題・レポート・資格取得などの自学自習について Ａ　十分取り組むことができた Ｂ　おおむね取り組むことができた Ｃ　あまり取り組むことができなかった Ｄ　全く取り組むことができなかった	生徒対象に １２月にアンケート調査 Ａ：５０％　Ｂ：４３％ Ｃ：　６％　Ｄ：　１％ 評価：Ａ・Ｂ合わせて９３％	生徒対象アンケート結果は、Ａ・Ｂ合わせて９３％となり、判定基準の８０％を上回った。特にAは５０％と前年度より５ポイントアップした。これはテスト勉強や宿題、資格取得に向けた学習によるものと考えられる。ただし、別の調査ではテスト期間以外の家庭学習に取り組んでいない生徒が２９％と多い。次年度も判定基準を継続し、基礎学力の定着や資格取得に向け、家庭学習が習慣化できるように進めていきたい。
	③ 毎月、図書便りを発行し全教員の「お薦めの本」を紹介するとともに、「読書週間」などの読書運動を全校的に行い、読書の習慣を身に付けさせる。	個人的な読書、授業や課題研究等の学習で、図書館の書籍を Ａ　おおいに利用している Ｂ　ある程度利用している Ｃ　あまり利用していない Ｄ　全く利用していない	生徒対象に １２月にアンケート調査 Ａ：４１％　Ｂ：２３％ Ｃ：１８％　Ｄ：１８％ 評価：Ａ・Ｂ合わせて６４％	生徒対象アンケート結果は、Ａ・Ｂ合わせて６４％となり、判定基準の５０％を上回った。全学年を対象として朝読書を実施したことにより、図書館の利用者数、貸出冊数の増加につながったと考えられる。 次年度も判定基準を継続し、生徒の図書館利用促進及び書籍の貸出し数増加に向け、各教科とも連携をとりながら、継続的に取り組んでいきたい。
	④ 資格・検定取得の説明機会を増やして受験を奨励するとともに、課外補習を充実させ合格者数を増加させる。	１月末での資格・検定試験延べ合格者数が学校全体で Ａ　８００人以上 Ｂ　７００人以上 Ｃ　５５０人以上 Ｄ　５５０人未満	１月末の資格・検定試験合格者数を検証 １月末現在では３４９人 評価：Ｄ	下半期に実施された資格・検定試験は例年通り実施されたが、上半期に中止となった合格者数をカバーするには至らなかった。出願中の資格試験が重複する等、生徒にとっては十分な準備期間が得られたとは言いがたい。年間を通じて計画的な指導を行い、合格に至らなかった1年生・2年生には引き続き継続した指導が必要である。
	⑤ ジュニアマイスター顕彰のゴールド特別表彰およびゴールド・シルバー・ブロンズの取得を目指し、学校全体で多くの資格・検定への挑戦意識を高めて認定者数を増加させる。	ジュニアマイスター顕彰ゴールドおよびシルバーの認定者数が学校全体で Ａ　８０人以上 Ｂ　６５人以上 Ｃ　５０人以上 Ｄ　５０人未満	全期の申請者数を検証 全期認定者数５４人 評価：Ｃ	下半期に実施された資格・検定試験は例年通り実施されたが、上半期に中止となった合格者数をカバーするには至らなかった。特に上半期の技能検定の中止や就職試験の日程変更が影響し、認定者数が大きく落ち込む結果となった。生徒の資格取得に対する意欲向上を促す指導を進めていきたい。
	⑥ インターンシップや地元企業説明会等により適切な進路選択を促進させるとともに、進路説明会やＬＨなどで進路に向けた情報提供を行なう。	各種進路指導行事・ＬＨなどによる説明や進路情報により、意識が Ａ　たいへん高まった Ｂ　ある程度高まった Ｃ　あまり変わらない Ｄ　全く変わらない	生徒対象に １２月にアンケート調査 Ａ：６８％　Ｂ：２８％ Ｃ：　４％　Ｄ：　０％ 評価：Ａ・Ｂ合わせて９６％	生徒対象アンケートの結果、Ａ・Ｂ合わせて９６％となり、判定基準の９０％を上回った。本年度も２年生のインターンシップを１０月に実施した。また、１２月の１・２年生対象の「地元企業を知る会」での事後アンケートで自分の進路に役立ったという生徒は１年生が９７％、２年生が９６％と好評であった。 この判定基準については次年度も継続して、A評価の割合がさらに高くなるように進路指導課・学年団が協力し、行事や学年ごとに必要とされる進路資料の作成を検討しながら計画的に取り組んでいきたい。
	⑦ 進路希望の達成のために指導の充実を図る。 基礎学力の定着を図ると共に、授業でコミュニケーション力を付けさせる工夫を行う。 外部講師による講演や面接指導、全教員による個別面談・指導を充実させる。	朝学習や日頃の学習、面接指導などにより、基礎学力やコミュニケーション力が Ａ　たいへんついた Ｂ　ある程度ついた Ｃ　あまりつかなかった Ｄ　全くつかなかった	３年生を対象に １２月にアンケート調査 Ａ：７７％　Ｂ：２３％ Ｃ：　０％　Ｄ：　０％ 評価：Ａ・Ｂ合わせて１００％	生徒対象アンケートの結果、Ａ・Ｂ合わせて１００％となり、昨年度より３ポイント上昇し、判定基準の８０％を上回った。朝学習ではマナトレやＳＰＩ演習、基礎学力定着用の問題などに対し各学年とも落ち着いて取り組んだ。今年度は７月中旬から面接指導をスタートさせコミュニケーション力の向上を図った。また進学希望者に対しては、高校の基礎固めとして６月から１２月まで毎日科目を決めて補習を実施してきた。 次年度も判定基準を継続し、企業の求める人材に応えられるよう、実力を付けさせられる様に努力をするとともに、進学希望者に対しては上級学校進学後の学習を見据えて、補習等により学力向上を図りたい。
		１回目の就職試験における内定率が Ａ　９０％以上 Ｂ　８０％以上 Ｃ　７０％以上 Ｄ　７０％未満	３年生を対象に １２月末に調査 １回目の内定率　９６％ 評価：Ａ	就職試験に挑戦した９１名のうち８７名が、１回目の受験で内定を取った。内定率は９６％であり判定基準を上回った（１月末現在、就職内定者は学校斡旋が９１名、公務員が５名）。求人件数については、ほぼ昨年同様の求人件数をいただき恵まれた状況であった。今年度も県内企業への内定者（６５名）が多く、地元企業の担い手としての人材を送り出すことができたのではないか。次年度も判定基準を継続し、企業の要望や求める人材の情報を積極的に集め、就職のミスマッチが起こらないように対応していきたい。

学校関係者評価委員会の評価	○授業を公開し、先生方が互いに参観をして自分の授業に活かしていることはよいと思う。 ○４，５月、休校になった状況であるにもかかわらず、就職状況はよく、先生方も頑張ったといえる。今後も、地域に貢献する人材を育成してほしい。
学校関係者評価委員会の評価を踏まえた今後の改善策	○今年度は休校の影響で６月に授業開始、新型コロナウィルス感染予防によるアクティブラーニング型の授業の自粛などで授業の公開等が遅れたが、次年度は早い段階での公開授業を実施する。 ○コロナ禍にもかかわらず、求人件数が多く全員就職は内定したが、次年度も危機感を持って進路関係行事や規範意識を高める取り組みなど継続し、良識があり、将来地域に貢献できる生徒の育成に努める。

重点目標		具体的取組	達成度判断基準	集計結果	分析(成果と課題)及び次年度の扱い(改善策等)
2	心身ともに健康で逞しい（タフな）人づくりを目指し、部活動や生徒会活動の活性化に努めるとともに、規範意識を高め、いじめを見逃さない学校づくりに努める。	① 県高校総体・新人大会で団体・個人とも上位入賞を目指し、高体連表彰敢闘賞を獲得する。	県高校総体の総合得点が A　７５点以上 B　６０点以上 C　５０点以上 D　５０点未満	県総体１月末集計結果 － 点 男子　－ 点　－ 位 女子　－ 点　－ 位 評価：今年度、県高校総体中止のため、評価については判定しない	新型コロナウィルス感染症の影響により、県高校総体が中止となった。 運動部加入率は８９．３％で、昨年度の８５．５％よりも増加している。
		② 文化部の重複加入を奨励し、各部の取組に、生徒が積極的に活動し、より良い成果を収める。	文化部の活動と成果に満足しているか A　たいへん満足している B　おおむね満足している C　あまり満足していない D　まったく満足していない	生徒対象に １２月にアンケート調査 A：６７％　B：３０％ C：　３％　D：　０％ 評価：A・B合わせて９７％	文化部加入者対象アンケートの結果は、A、B合わせて９７％と非常に高い結果となった。 今年度は新型コロナウィルス感染症の影響で発表する機会は少なくなったが、生徒たちは各文化部において、積極的に活動したと考えていることがわかる。
		③ 生徒会を中心にして行事への参画意識を高め、生徒が自主的に活動する行事にする。	生徒会行事に満足しているか A　たいへん満足している B　おおむね満足している C　あまり満足していない D　まったく満足していない	生徒対象に １２月にアンケート調査 A：６４％　B：３３％ C：　３％　D：　０％ 評価：A・B合わせて９７％	生徒対象アンケートの結果、A・B合わせて９７％と高い結果となっている。 新型コロナウィルス感染症の影響で、例年とは違い、内容を変更したり日程を短縮したりしたが、いろいろな工夫をした結果、開催した学校祭や球技大会では、苦労や心配をした分だけ、生徒たちは満足できたのではないかと考えられる。
		④ 規則やマナーを守り、思いやりの心を育むため、生徒への声かけや観察を行い、生徒との相互理解を深め、規範意識といじめ防止の意識を高める。	本校の教育活動や規範意識向上の取組により、規範意識やいじめ防止の意識が身についたか A　十分身についた B　少し少し身についた C　あまり身についていない D　全く身についていない	生徒対象に １２月にアンケート調査 A：８３％　B：１７％ C：　０％　D：　０％ 評価：A・B合わせて１００％	生徒対象アンケートの結果、A・B合わせて１００％となり、目標の判定基準の８５％を上回った。日々の「登校指導」や「校内巡視」などを通して、「通学自転車の施錠」や「校内におけるスマートフォン(携帯電話)の使用禁止」などの指導によって、生徒の規範意識やいじめ防止の意識が高まったものと考えられる。マスクを着用で生徒の表情を見ることが難しいが、注意深く生徒を観察し、この取り組みを次年度も継続して行い、規範意識の高い社会人を育てていきたい。
		⑤ 保健だよりや掲示物、集会、ＳＨ等を利用して、生徒の心身の健康管理についての意識の高揚をはかる。	自分自身の心と体の健康管理について、日頃から意識して生活しているか A　常に意識している B　ある程度意識している C　あまり意識していない D　まったく意識していない	生徒対象に １２月にアンケート調査 A：６２％　B：３３％ C：　４％　D：　１％ 評価：A・B合わせて９５％	生徒対象アンケート結果では、A・B合わせて９５％と中間アンケートより１ポイント、昨年度同時期より２ポイントアップし判定基準の８０％を大きく上回った。理由として、今年度は新型コロナウィルスの感染防止対策として、毎朝の検温・体調チェック、手洗いや消毒、マスク着用や換気など生徒自身の健康管理について、適切な時期に丁寧に行ったことが挙げられる。 今後も、継続して生徒が健康的な行動習慣を確立できるように指導・支援していきたい。
3	社会貢献や環境に対する意識を高めるため、工業学習成果の提供やボランティア活動等を積極的に行い、地域社会との連携を深める。	① 社会に貢献する大切さや必要性を認識するために、地域ボランティア活動や校外での一日一善運動を推奨する。	地域ボランティア活動や一日一善運動を通して社会貢献の大切さを理解しているか A　十分理解している B　ある程度理解している C　あまり理解していない D　全く理解していない	生徒対象に １２月にアンケート調査 A：６７％　B：３０％ C：　３％　D：　０％ 評価：A・B合わせて９７％	生徒対象アンケートの結果、A・B合わせて９７％と前年同期と同数の高い結果となった。 「一日一善運動」では、部活動単位で行っている活動の他に、自主的に毎朝あいさつや掃除に取り組む生徒も見られた。「ボランティア清掃」では、１１月に実施した釜屋海岸清掃に加えて、普段使用している自転車道路の清掃活動なども行うことができた。生徒の取組状況から、社会貢献の大切さを十分理解していることが確認できる。
		② 環境保全のこれまでの取組を向上させ、ゴミ分別や環境保全が正しく行われているかを評価し、環境に対する意識の向上を目指す。	環境保全（ゴミの分別・節水・節電等）に取り組んでいる割合が A　９０％以上 B　８０％以上 C　７０％以上 D　７０％未満	生徒対象に １２月にアンケート調査 A：６９％　B：２９％ C：　２％　D：　０％ 評価：A・B合わせて９８％	生徒対象アンケートの結果、A・B合わせて９８％と前年度を少し上回る高い結果となった。今後も保健指導課の清掃活動や生徒会課の一日一善運動に加えて、生徒指導課の規範意識向上の取組等とも関連させながら、環境保全とともに環境美化について生徒の意識高揚と実践力を培っていきたい。
4	教職員が相互に業務を点検し、組織的で効率的な業務のあり方を探る。	① 校務分掌ごとに業務の重複を点検し、整理に努めることで、多忙化を改善する。	各分掌内の定期的な会議において、主管する行事や業務見直しの協議成果として A　改善を十分行えた。 B　改善をある程度行えた。 C　改善をあまり行えなかった。 D　改善を行えなかった。	職員対象に １２月にアンケート調査 A：２６％　B：５７％ C：１７％　D：　０％ 評価：A・B合わせて８３％	職員対象のアンケートの結果、A・B合わせて８３％が改善を行えたと回答した。これは今年前期よりもやや減少しているが、前年同時期とほぼ同数である。働き方改革を進めていく上で、業務の見直しや作業の効率化を図ることは必要である。今後も各分掌内において協議をするとともに、多忙化改善に向けた取組を進めていきたい。特に、業務の平準化と職員の健康管理を推進して、通勤事情を含めた働き方改革を進めていきたい。
学校関係者評価委員会の評価			○校則の見直しを２年ごとくらいにするとよい。 ○倉庫や部屋で使っていない物品等を把握しているのか。いるものといらないものを判別し、きれいにしてほしい。 ○少数でも、アンケート回答Ｃ，Ｄの具体を確認し、改善につなげてほしい。		
学校関係者評価委員会の評価を踏まえた今後の改善策			○校則は社会環境や生徒の状況の変化に対応し、適切なものとなるように見直していく。 ○使っていない部屋の整頓を行い、廃棄可能なものは処分していく。 ○学校評価に関するアンケートでＣ・Ｄの場合、理由を書いてもらうような様式に変更する。		